

備後国府を未来に…

府中市には、備後国府跡だけでなく、様々な時代の遺跡が今でも地下に眠っています。発掘調査により遺跡は、当時の人々の姿や社会・文化を私たちに物語ってくれます。府中市教育委員会では、このような文化財を市民に知ってもらい、次の時代へ伝えていくため、調査成果の公開、文化財の保存・活用に努めています。

◎発掘調査…遺跡が語るものを読み取る

発掘調査では、現地での作業のあと調査報告書を作成します。その後、資料の調査や研究を続けて遺跡の全容を解明していきます。



洗浄



復元



実測

◎公開と活用…遺跡が語るものを伝える

府中市歴史民俗資料館での調査成果の常設展示のほか、発掘調査の現地説明会や歴史フォーラム、サテライト国府展、体験教室等を開催しています。



現地説明会



体験教室



歴史フォーラム



備後国府マスコットキャラクター
国府ひめちゃん&国府まる君



府中市歴史民俗資料館

出土品を見に行こう！

備後国府の貴重な出土品を展示し、府中市の歴史を解説しているほか、当時の衣裳も復元展示しています。国府衣裳の試着など、古代体験イベントも開催中です。

☎ 0847 (43) 4646

備後国府発掘 — 府中のまちを探る —

編集・発行 府中市教育委員会
〒726-0003
広島県府中市元町1番地5
☎ (0847) 44-9024

発行日 令和7年3月31日 改訂
印刷 有限会社 コトブキ印刷

国府は、全国に60余か所しかありません。府中市教育委員会では、備後国府を府中市の貴重な文化遺産として、国府を解明するため取り組んでいます。発掘調査で明らかになりつつある備後国府の姿を紹介します。

府中市教育委員会

『備後国府』に係る市内の主な遺跡と文化財

国府って何？



市名となっている「府中」は、「備後国（広島県の東半分）」の「国府」が設置されたことに由来しています。

今から約 1300 年前、国家の仕組みが整備されるなか、全国は約 60 の「国」（今でいう県）という行政単位に分けられ、国ごとに「国府」が置かれました。

「国府」とは、各国を統括するために設けられた役所（県庁所在地のようなもの）で、奈良時代（8 世紀）から平安時代（12 世紀）までの約 500 年間にわたり、地方の政治・経済・文化の中心地として栄えました。

「国府」には、都から派遣された役人「国司」が政治や儀式を行う「国庁」を中心として、行政事務を行う「曹司」、国司の官舎である「国司館」、税を管理する「倉庫」や、国府で使用する様々な製品をつくる「工房」など、関係施設が計画的に建ち並び、道路も整備され、多くの人々でにぎわっていました。

府中市では、昭和 57(1982) 年以降の発掘調査によって、出口町から広谷町までの芦田川北岸の山寄せ一帯に国府に関連する遺構や遺物が確認されました。そして、元町に国府の重要施設（中心部）が所在していたことが明らかになり、平成 28(2016) 年に、備後国府跡として「金龍寺東地区」と「ツジ地区」が国の史跡に指定され、令和元(2019) 年に、「伝吉田寺地区」が追加指定されました。

府中市街地に国府が置かれたことは、その後の府中にも大きな影響を与えました。遺跡以外にも寺社や道路（地割り）、また伝説として、現在にも国府に由来するものが多く残されています。



前原遺跡…古代山陽道の芦田駅家跡？

前原遺跡は、古代山陽道の駅家（駅館）と考えられる遺跡です。掘立柱建物から礎石建物に建て替えられた巨大な建物跡などが確認され、大量の瓦が出土しています。

駅家は、官道に沿って一定の間隔に置かれていた施設のことで、当時、都と九州の大宰府を結ぶ山陽道は最も重要な路線とされ、駅館は、漆喰の壁に朱塗りの柱で、瓦が葺かれた豪華な建物でした。



史跡指定地

備後国府跡 ツジ地区…国府の重要施設 国司館跡か

芦田川支流の砂川（音無川）の東岸、現在の総社の南に位置しています。溝に囲まれた約109m四方の区画の内外に、東西南北に主軸を揃えた掘立柱建物群などが確認され、役所に関わるような遺物が多く出土しました。都から赴任してきた国司の館跡もしくは、文書を扱うような役所の施設があったと推定されます。国府が設置された頃の7世紀末から、国府の機能が衰退していく13世紀頃まで、継続して使用されており、重要な地点であったと考えられます。

詳しくは中ページへ



掘立柱建物と北辺区画溝

史跡指定地

備後国府跡 金龍寺東地区と伝吉田寺跡…国府の重要施設

金龍寺東地区は、ツジ地区の約400m西方にあり、古代寺院の伝吉田寺跡の東隣に位置しています。平安時代初めには、苑池（庭園の池）や、石積基壇の上に瓦葺礎石建物がつくられました。国府の重要施設の一つと推定され、施設の性格は断定できていませんが、庭園の池があることや、国府の宗教機能を担ったとされる伝吉田寺跡に隣接していることなどから、宗教施設もしくは儀式を行うような施設であったと考えられています。

伝吉田寺跡は、7世紀後半に創建された寺院跡で、昭和18年に塔跡周辺が県史跡に指定され、令和元年に推定門跡周辺が国史跡に追加指定されています。

詳しくは中ページへ



石積基壇

備後国府跡 鳥居地区…古代山陽道と国府への分岐点

府中市文化センター周辺に広がる遺跡です。広場整備に伴う事前の発掘調査で、古代山陽道と備後国府の中心部に向かう道の分岐点を確認され、国府の入口とも言える重要な場所であったことがわかりました。現在、調査で確認された道路を表示した「はじまりの広場」と名付けられた遺跡を生かした広場に整備されています。

また、文化センターの地下からは、災いを祓う儀式（祓）で使われたとみられる「人形」（祭祀具）、「権介」（国司の役職名）と書かれた土器なども出土しています。



はじまりの広場から見た備後国府想像図（画：早川和子）



人形

確認された分岐点

国府に係る主な文化財

- 「常城」推定地（本山市～福山市新市町）国府中心部北方の亀ヶ岳一帯に推定されている古代山城跡です。
- 県史跡「青目寺跡」（本山市）亀ヶ岳の山上から山腹に広がる平安時代初期に創建された山林寺院跡です。平安期の仏像（木造日光・月光菩薩立像、木造天部立像、木造聖観音立像：いずれも県重要文化財）が残っています。
- 「南宮神社」（栗柄町）国府の南を守護したといわれる神社で、平安時代～鎌倉時代の神像・隨身立像（木造神像11軀・木造隨身立像4軀：国重要文化財）が伝わっています。
- 「日吉神社」（本山市）亀ヶ岳の山麓にある神社です。国府の守護神として勧請されたと伝わる神社で、古い石鳥居（市重要文化財）が山陽道と国府の分岐点にあります。
- 「総社」（元町）平安時代になって、国府近くに設置されたとされる神社で、備後国府跡ツジ地区すぐ北の尾根上に所在しています。



南宮神社の神像（一部）

『備後国府跡』

ツジ地区

7世紀末(奈良時代の少し前)から13世紀(鎌倉時代初め頃)にかけて、正方位を意識した掘立柱建物跡が多数検出されたほか、礎石建物跡や井戸、区画溝などが確認され、墨書土器を含む須恵器、土師器、緑釉陶器、貿易陶磁器や、硯、腰帯具類、漆附着土器などのほか、奈良三彩や銅印など全国的にも希少なものが出土しています。区画を基準として、区画の内側(C地区)、区画の北側(N地区)、区画の東側(E地区)とわけて、みていきます。

ツジN地区(区画の北側)

地区内の中心的な建物として、掘立柱から礎石建ちに建替えられた二面廂建物跡(SB004)が確認されています。また、平安時代のもともみられる「賀友私印」と陽刻された銅製の「私印」が出土しています。印面の大きさは約4.1cm四方で、ベンガラが付着しており、実際に使用されていたものとみられます。

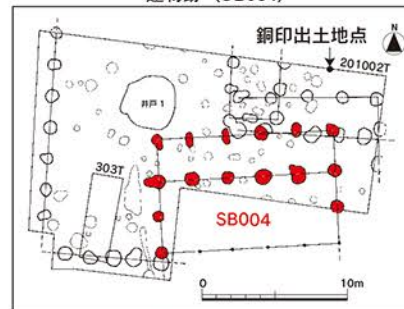


印面

銅印



建物跡 (SB004)



遺構平面図 (SB004 周辺)

ツジC地区(区画内)

発掘調査と地中レーダー探査によって、溝で囲まれた北辺108.1m、東辺121.2m、南辺100.6m、西辺115.0mの方形の区画が確認されています。区画は7世紀末～8世紀初め頃に造られ、9世紀代(平安時代初め頃)には無くなってしまいましたが、その後も、掘立柱建物や礎石建物などが造営され、13世紀頃まで継続的に空間が利用されていました。

区画内の中心的な建物として、中央やや北寄りで南北に並ぶ3棟の東西棟(SB111・SB112・SB151)があります。奈良時代後半頃のもので、規模は東西約12mで、一番北側の建物(SB151)は廂付きの建物でした。付近から、ガラス小玉54個が入った奈良三彩の小壺が出土しており、一帯の施設を整備する際の地鎮に使用されたとみられます。

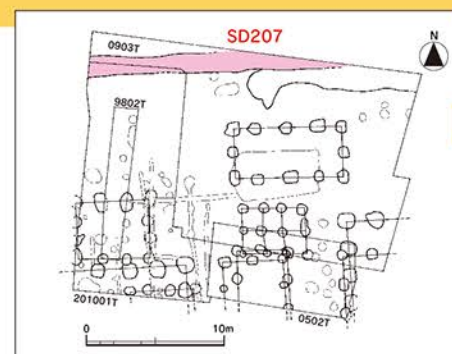
その他、役人が使用したベルトの飾り(腰帯具)や硯、瓦、当時の高級品である緑釉陶器、貿易陶磁器などが出土しており、特に、緑釉陶器、貿易陶磁器は、備後国内でも突出した量が出土しています。



北辺の区画溝 (SD207)



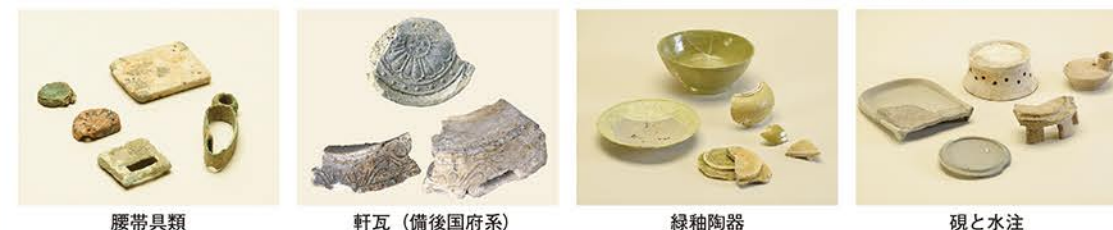
奈良三彩小壺とガラス小玉



遺構平面図 (SD207 周辺)



遺構平面図 (SB111・112・151 周辺)

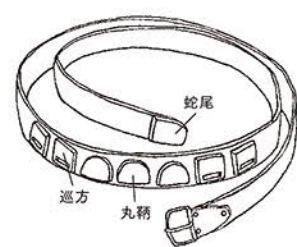


腰帯具類

軒瓦(備後国府系)

緑釉陶器

硯と水注



ベルトの飾り使用法

ツジE地区(区画の東側)

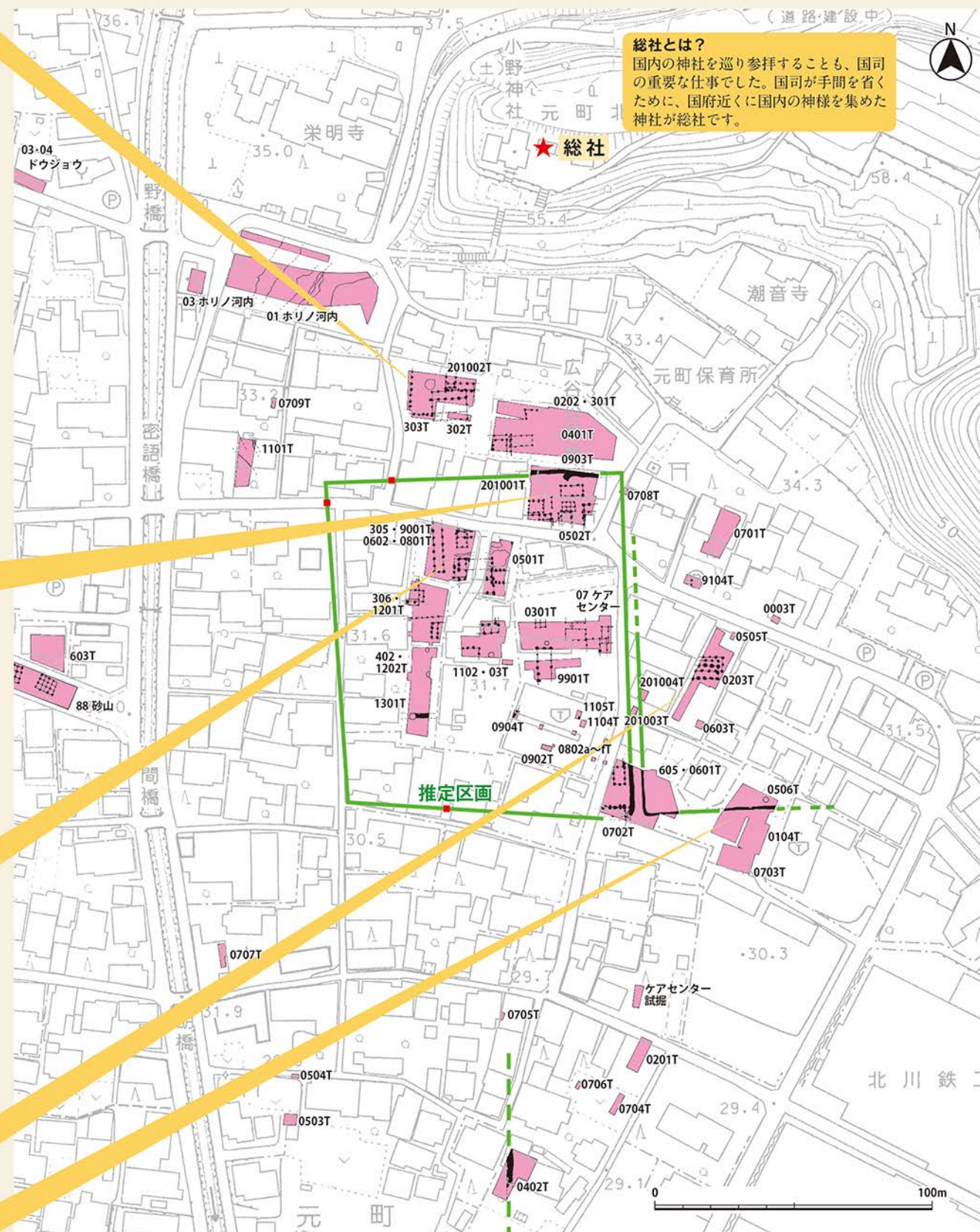
全体の規模は不明ですが、東側にも、中央の区画と南面をそろえた別の区画があったことが確認されました。区画の内側では、8世紀から10世紀に至るまで、ほぼ同じ場所に建替えられている桁行4間以上で東西10m以上の掘立柱建物跡(SB042・SB043a・b)などがみつかります。



区画溝



掘立柱建物跡 (SB042・043a・b)



総社とは？

国内の神社を巡り参拝することも、国司の重要な仕事でした。国司が手間を省くために、国府近くに国内の神様を集めた神社が総社です。

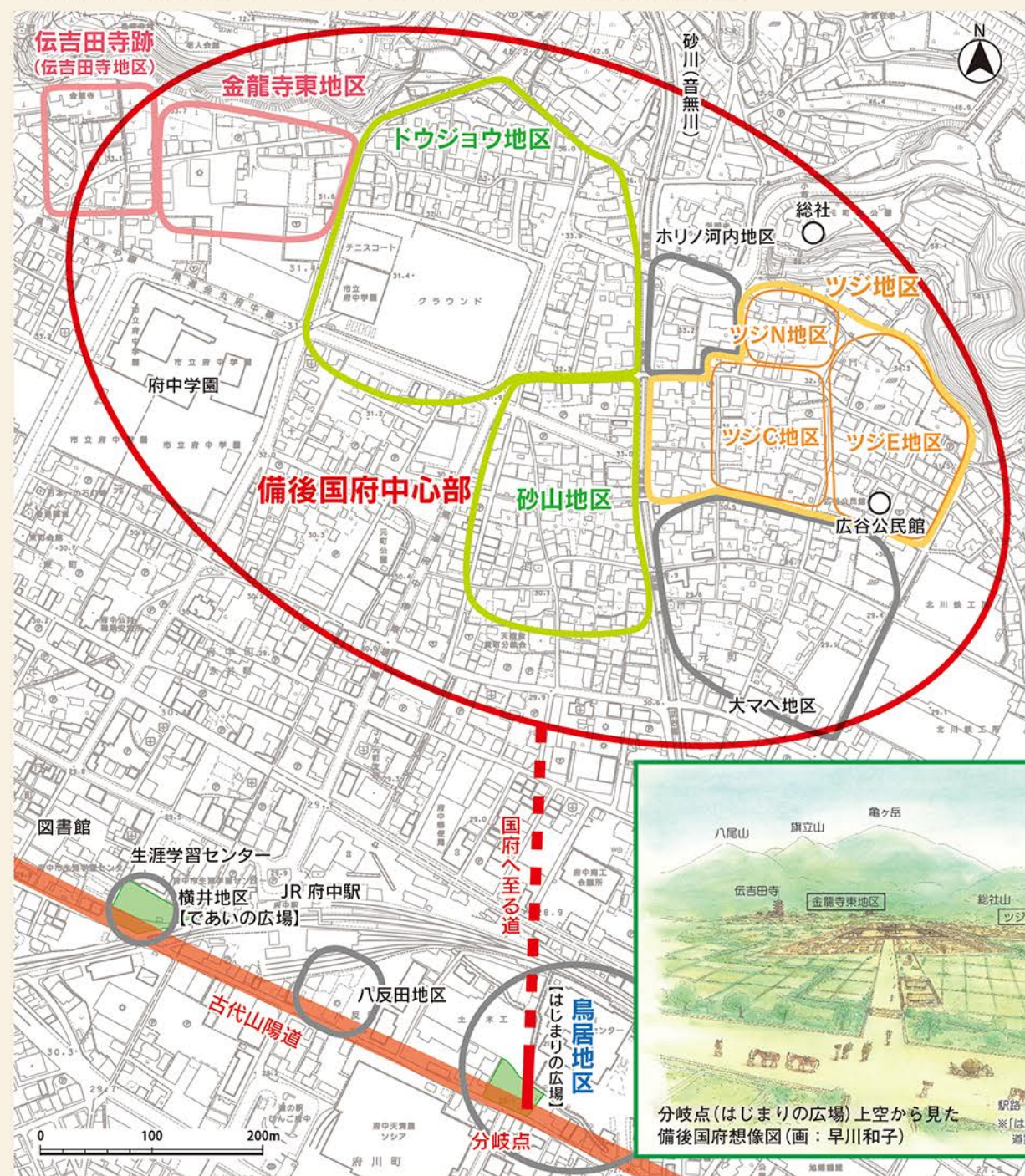
ツジ地区全体図(縮尺1/2,000)

※■はレーダー探査反応地点です。

※地図上の○○○Tとは、調査地点の名前です。調査した年などがわかります。例えば、0402Tは、2004年の2か所目に調査した地点のことです。

の調査成果

備後国府跡(国府中心部)の地区配置図



砂山地区

古代山陽道から国府へ至る道の延長線上に位置しており、全体像は不明ながら、「国府」の有力推定地となっています。



そうばしら 総柱の掘立柱建物跡

ドウジョウ地区

土塁か築地を伴う東西方向の2条の区画溝が確認され、「所」や「京」「万呂」と読める墨書土器が出土しています。



区画溝の調査状況

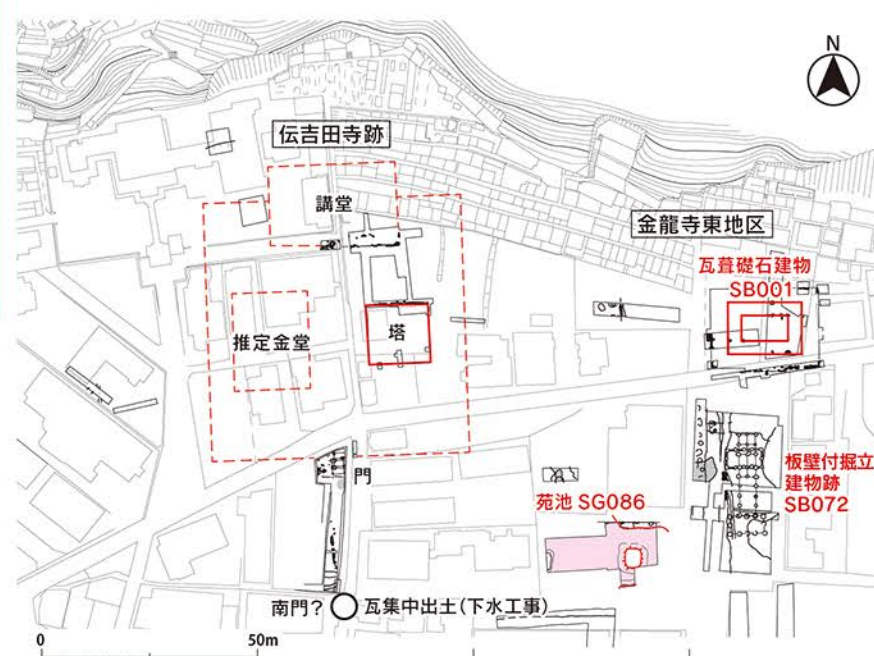
金龍寺東地区と伝吉田寺跡(伝吉田地区)

金龍寺東地区では、苑池跡(庭園の池)や、石積基壇をもつ瓦葺礎石建物跡、掘立柱建物跡、井戸など、奈良時代から平安時代の遺構が確認され、伝吉田寺跡や備後国府と同じ範型で製作された軒瓦(藤原宮式・備後国府系)や鳥が陰刻された鬼瓦を含む多量の瓦類のほか、唐三彩、墨書土器、硯、緑釉陶器などが出土しています。

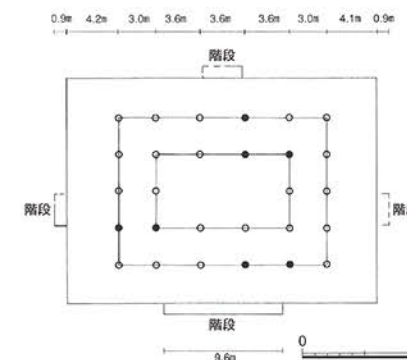
特徴的な遺構として、苑池(SG086)と瓦葺礎石建物(SB001)があり、苑池は、南北15m以上、東西23m以上の広さで、9世紀代に中島のある池が築造されて、10世紀代に一部を埋め立て利用されていました。

瓦葺礎石建物は、9世紀から10世紀にかけて、庭園の池とともに機能していました。瓦葺礎石建物は、桁行5間、梁行4間の四面廂建物で、真南を向いています。平面の大きさは、桁行16.8m、梁行12m程度で、基壇との距離から、軒の出は約4.5m程度あったと推定され、組物を必要とする格式の高い建物であったようです。石積の基壇は、復元高約1.2m程度で、四方に階段が取り付けられていました。

伝吉田寺跡では、塔と講堂の基壇が確認され、金堂は未確認ながら、法起寺式(観音寺式)の伽藍配置が推定されています。塔基壇は一辺14.5mと地方では規模が大きく、国府との位置関係や出土遺物などから、国府設置後には国府の仏教行事の一端を担った寺院と考えられています。平成30年の調査では、掘立柱建物から礎石建物に建替えられた門と推定される建物跡が確認され、7世紀後半に創建された寺院が12世紀後半以降も存続していたことがわかりました。また、備後国分寺や山陽道の駅家推定地(中島遺跡・前原遺跡)と同類の重文系鬼瓦も出土しました。



金龍寺東地区・伝吉田寺跡周辺図



瓦葺礎石建物跡(SB001)平面模式図



板壁付掘立柱建物跡(SB072)



石積基壇と瓦葺礎石建物跡(SB001)



唐三彩の破片



鬼瓦



藤原宮式軒瓦(伝吉田寺跡)



鬼瓦に描かれた鳥



重文系鬼瓦(伝吉田寺跡)



伝吉田寺跡 塔基壇